

喜びや感動やりがいがあった



鈴木さんら学びや苦勞報告



プロジェクトの活動内容を報告する鈴木彩里さん＝浜松市中区の静岡文化芸術大で

「がいを感じた」と語った。記録班の学生がプロジェクトの様子を撮影した動画を同大のホームページで見ることができる。

(木谷孝洋)

静岡文化芸術大の学生が取材を体験する「新聞記者をやってみた」プロジェクトの報告会が、浜松市中区の同大であった。プロジェクトに参加した学生十一人が新聞づくりを通して学んだことや苦勞を語った。

プロジェクトは同大と中日新聞東海本社、静岡新聞社の三者で実施。学生たちは二班に分かれ、両社の記者の指導を受けながら浜松まつりやスーパー銭湯、佐久間竜神の舞などを取材した。記事は四月から随時、両紙に掲載された。

報告会には約三十人の学生が集まった。浜松まつりに対する若者百人の好感度を調査した平松千佳さん（文化政策学科三年）は「短い時間で記事を執筆することが難しかった。浜松まつりの直前に掲載され、時事性のある記事になったと思う」と話した。

参加したよさこいチームを取り上げた鈴木彩里さん（同）は「取材先とコミュニケーションを取ることで、大切さを感じた」とした上で、「記者の仕事を通じて喜んだり、感動したりすることができた。記者のやり